

一生忘れることのないステージ

あまりにも突然だった。バラバラと肌を感じる程度の雨が大粒に変わった。11月1日、白門祭(多摩キャンパス)3日目の中央ステージ上。

私たち「ノインクラッセ」(チーム名、詳細別掲)はオープニングの映画ミュージックを踊り終えて、次の曲への架け橋であるMCの真っ最中だった。

「中止です!」。目の前に両手で大きくバツ印を作った白門祭実行委員会メンバーの姿が飛び込んできた。絶望に近かった。中止だなんて、練習の成果を披露できない。ステージはこの1回だけなのに…。

私たちのステージはコピーダンスである。AKB48、Perfumeなどアイドルグループや歌手の振り付けを完全コピーする。曲に合わせてステージ衣装も着替える。

チーム名の「ノインクラッセ」とは、私が所属するアナウンス研究会の先輩が、4年前に有志で結成したダンスチーム。私は一昨年から参加。ことしは振り付け担当として、チームを引っ張っていく立場を任された。

最大の壁は全員のモチベーションをいかに上げるか。メンバー7人のうち、ダンス経験者は3人。有志として集まったチーム色が強い。それでも「楽しいものにするのはもちろんだけど、お客さまにお見せることを目的」とした。人前で披露する以上、妥協はしないと心に決め、一つひとつ丁寧に指導し、練習を重ねた。

壁を高く感じた。本番前になっても全員がそろわない。「欠席します」の連絡さえない。「このままではチームがバラバラだ」。私は心を決めた。真正面

からメンバーに思いをぶつけた。「やるなら全力でやったほうが楽しいと思わない?」。言い合ったのは初めてだ。「本番まであと少し、頑張ろうと思う」。不安はあったが、伝えてよかったと心から思った。

迎えた本番は大雨。実行委の指示を受け、ステージから仕方なく降りた瞬間だ。

「踊らせてください!お願いします」

後輩の声だった。4年生には最後の舞台。終わらせるわけにはいかない、と実行委に頭を下げた。みんなで懇願した。

「MCなしでよければ許可します」

うれしさでこみ上げてくる涙をこらえた。

ももいろクローバーZを歌い踊った。SMAPも演じた。駆けつけてくれたチーム創設者の先輩が、私をぎゅっと抱きしめて言った。

「本当によかった。雨の中でも楽しそうに笑顔いっぱい姿に感動したよ」

雨中に傘をさし、立ち放しで、最後まで応援してくれた人たち。寛大な心で許可してくれた実行委。ステージは大勢の人の力添えで成功した。

私はこの日のことを、おばあちゃんになっても、決して忘れることはないだろう。



エプロン姿の筆者

もっと知りたい

■ノインクラッセ(ドイツ語 Neun Classe)

9組を意味する。グループの立ち上げは創始者が必修としたドイツ語のクラスのメンバーとともに。そのクラスが9組だった。